

花巻の仕事

Made in HANAMAKI

花巻人形



花巻で生まれ、270年以上の歴史を誇る東北を代表する土人形。干支人形や節句人形、恵比須・大黒などの縁起物など、さまざまな種類があります。平賀工芸社の花巻人形は、梅や桜の花模様の華やかさと、シンプルな形の素朴さが特徴で、全国から人気を集めています。

会社名 平賀工芸社

所在地 桜町三丁目68-23 (☎0198-23-5658)

会社概要 昭和47年創業。長く途絶えていた花巻人形の制作を同49年に同社が復活。人形師として花巻人形の歴史を受け継ぐ3代目の平賀恵美子さんを中心に、独特の技法を守り、心を込めて人形作りをしている

■どんな危険があるの？
○電子レンジでコーヒーや豆乳を温めた後、庫内から取り出そうとしたら、中身が急に飛び散りやけどを負った
○ガスコンロやIHクッキングヒーターで味噌汁を温め直したところ、同じように中身が急に飛び散りやけどを負った
■注意することは？
○温めるものが液体であれば、調理器具にかかわらず、急激な沸騰により中身が飛び散る「突沸」

■困ったときは？
○市民生活総合相談センター(☎24-2111 内線259)へ
○ガスコンロやIHクッキングヒーターを使うときは、火力を弱めにし、かき混ぜながら温めましょう
○電子レンジで飲み物を温めるときは、温め過ぎないようにしましょう。温め過ぎてしまったら、突沸を避けるため、加熱が終了しても容器をすぐに取り出さず、扉を閉じたまま1〜2分冷まししましょう

市民生活コーナー

食品加熱時の突沸に注意！

が起きる可能性があります

わんこそば全日本大会を支える第4代行司

◆行司になるきっかけは
平成6年に花巻青年会議所の事業で「わんこそば大会」を開催し、行司を務めました。それが大盛況だったというので、翌年の「第37回わんこそば全日本大会」に第4代行司としてデビューしました。以来20年、こんなに長く行司をやることになるとは思っていません

◆行司として心掛けていることは
全日本大会の参加者の皆さんにはリラックスして、たくさん食べてもらいたいと思いを掛けています。市外で年に5回ほど行われる地方巡業でも行司を務めます。北は北海道、南は沖縄、海外でも行われる巡業では、参加する方々の緊張をほぐし、楽しんでもらえるよう心掛けています。
◆行司として望むことは
一昨年、第5代行司が2人誕生しました。さらに第6代・第7代と、伝統を引き継いでいってほしいと思っています。



ただあき 佐藤 忠明 さん (高木 59歳)

世界と花巻

国際都市推進員の仕事を紹介します

●朴 銀貞(パク ウンジョン・韓国出身・写真左)

私は、定住外国人を対象とした講座での通訳や暮らしに関する情報の翻訳、えふえむ花巻の行政番組「外国語インフォメーション」でのアナウンスなど、さまざまな場面で外国人の支援に携わっています。また、フェイスブックを使った日本語と韓国語による情報発信や花巻国際交流協会などからの依頼による韓国語の指導、韓国文化の紹介なども行っています。その中で昨年は、花巻東高校の修学旅行の事前学習で生徒に韓国語を教えたことや、11月に開かれた「国際フェア」で市民と交流したことが特に印象に残っています。

江戸時代には、朝鮮と日本の間に「通信使」と呼ばれる使者の往来がありました。この通信使のように、国際都市推進員として、今後も両国の友好と相互理解のため頑張りたいです。



●ガットマン・ジェシー(アメリカ出身・写真右)

私は、外国から花巻に来た人の通訳など、コミュニケーションに関わる仕事をしています。また、朴推進員と2人でごみカレンダー、各種検診、交通サービスなどの生活情報や市内の公共施設、宮沢賢治の紹介などの翻訳を手掛けています。グラフィックデザインの技術を生かし、翻訳した内容を見やすい形にすることも私の役割の一つです。

通訳の仕事の中で昨年は、観光ビデオを英訳し、姉妹都市から来た皆さんに花巻を紹介したほか、よく使う日本語を教えるなど、日本文化を理解してもらえるように工夫しながら取り組みました。

フェイスブックでは、市内のイベント情報や四季の様子をリサーチし、英語と日本語に写真や絵などのグラフィックを交えて、分かりやすい情報発信を心掛けています。

いきいき仲間たち



日本の伝統を音にして 琴古流尺八花巻竹友会



会員の皆さんは1音1音確かめるように、尺八の調べを響かせています

日本の伝統楽器・尺八を奏でる琴古流尺八花巻竹友会。尺八の中でも、歴史が最も古い琴古流宗家竹友社に所属しています。
会員は30代から60代までの男女15人。毎週日曜日に「花巻市民の家」で練習しています。
「尺八は、聞く人を癒すような心にしみる音色が特徴」と話す、会の代表の佐藤竹園さん。古典的な曲から歌謡曲、童謡などさまざまな楽曲を地域の催しで披露しているほか、老人ホームを訪問しての演奏会なども行っています。
「指の使い方やあごの動きで音が変わるので、とても奥

が深い。正確な音が出せるように練習に励んでいます」と会の皆さん。秋に行われた市民芸術祭では、表現豊かな演奏で会場を魅了しました。
佐藤さんは、「伝統文化を大切に、絶やさないようにという使命感を持っていきます」と、技術の伝承に意欲を見せています。

【問い合わせ】
代表 佐藤竹園さん(☎24-3377)

